

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	まずはホームの中でその人らしく暮らせるよう方針を決め、年頭におき心掛けている。	地域の中で、その人らしく暮らせる方法を見つけていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの方針を日々の業務の中で念頭におき心掛けている。	ホームの方針を実践し取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	木かげを理解していただけるように、地域の行事に参加している。(お祭り・運動会・家族との食事会など)	イベント行事の際に地域との交流を更に計りたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板や買い物時にコミュニケーションを取る様になっている。(流しそうめん・花火大会の際、近隣に声をかける)	近隣の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしていきたい。地域の方も参加できるような行事を考えていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は回覧板・祭りなどに参加。地域の民生員の方にお願ひし、日本舞踊・フラダンス・紙芝居をしていただいた。	地域のゴミ拾いなど、行事に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所以外の高齢者にことについては、あまり考えていなかった。挨拶程度しか出来ていない。		地域の方と交流をもち話し合って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価してもらったことは、改善や継続していける様に心掛けています。		自己評価及びスタッフ間でもお互いに評価し話し合って行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行い、情報の共有や改善策を話し合っている。		一人では気づかない点などもあるので、今後も話し合って行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と交流が欠けている。		地域との交流をもっていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が職員に対し勉強会を実施していないため、理解していない職員もいる。		制度についての勉強会を設けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で話し合いや注意をし合い気をつけている。言葉遣いなど管理者より指導などして頂いている。		全員が理解出来る様に虐待防止法などの勉強会を設けて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には見学や説明し理解していただき契約となる。</p>	<p>管理者だけでなく、スタッフ全員も一通りの事を説明できるように勉強していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様の意見など希望をスタッフ間で共有し、速やかに対応出来る様に心がけている。</p>	<p>入居者様が希望等を言いやすい様な環境を作れるようにしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の様子を担当者が手紙にて報告している。なにかしらの変化が合った際は早急に電話で報告している。</p>	<p>定期的にお知らせの新聞の様なものを検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など意見を伺い速やかに対応している。</p>	<p>ご家庭様が意見を言いやすいような対応をしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議などスタッフの意見を聴く機会を設け、反映できている。</p>	<p>定期的な会議を設けていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の離職率が高く維持するのが困難・常ねギリギリの状態だが調整はされている。</p>	<p>スタッフの人数の確保をしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフのストレスなど感じ、話を聴いたりしている。2ユニット合同のイベントをしたり、日常での行き来をして、覚えてもらっている。日によって、ユニットスタッフの交換など少しずつしている。</p>	<p>日頃からの、入居者さんも行き来をし交流を深めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人育成マニュアルや教育担当をつけている。ホーム内にて勉強会を実施している。</p>	<p>勉強会の回数を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修などの参加募集やその為のシフトの調整をしている。</p>	<p>他グループホームとの交換ボランティア等していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>気晴らしになる行事を考えたり、時に休憩時間にどのように思っているか話し合ったりしている。明るく働きやすい職場作りをしている。シフトに工夫をしている。</p>	<p>働きやすい環境づくり 職員も楽しめる行事の検討。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>時間のある時にはコミュニケーションを取り、良い所悪い所など話せるようにしている。</p>	<p>勤務状況を完全に把握してほしい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>様子を伺いながら少しずつ聴いていく様に心がけている。</p>	<p>ご本人が話しやすい状況をつくれるようにしていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時・面会時・特変時などに希望や日々の状況を、伺ったり伝えたりしている。(些細な事でもすぐに連絡をする)</p>	<p>日頃からご家族様との信頼関係を築ける様心がけていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と本人の希望や必要な事が異なる事もあるが、その事も把握して対応している。		ご本人にとって、何が必要で良いのかご家族様と話し合っていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や体験入居をしていただいている。ご家族様の意思などで、なかなか入居前に来ていただけない場合もある。		入居前の見学や体験入居の意味など理解いただけるように説明していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事の準備などを一緒に行い、色々昔の人の知恵など教えていただける。行事等さまざまな場面で一緒に楽しいことなど共感しあえている様に感じている。		楽しんでいただける場面を増やしていき、写真などを振り返り見たりして思い出ずことで感じていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などには出来るだけ参加していただき、今の様子を知っていただき一緒に楽しんでいただける様に企画等している。		一緒に参加いただける行事等の機会を増やしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの暮らしの様子や本人の希望など、あまり良い話でない時はお互いが嫌な思いをしないように和らげて伝えている。		毎月の手紙と一緒に、書ける方は手紙を書いてもらい同封していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた近所の方にも面会に来ていただいている。本人宛の荷物や手紙が届いた際は、必ずお礼等の電話をしている。自宅の方へのドライブなどしている。		面会に来ていただける様に積極的に声かけを行っていきたい。手紙等のやり取りが出来る様 支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で席替えやスタッフが間に入る等し、パワーバランスを把握し気をつけている。		日々の精神状態を把握し穏やかに過ごしていただけるように努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム側からは積極的には行ってないが、ご家族様の意思に添って付き合っている。		ご家族様の考え状況もあると思うので、慎重に検討していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望、意思を尊重し穏やかに生活していただけるように心がけている。		入居者様の希望を聴きだせる様な、環境、関係を築いていき添えるように努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様に聞き、今までの生活歴を把握し日々の生活を把握できる様につとめている。		ご家族様に詳しい生活歴を聴いてみていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録の記入、読む事や申し送りにより、総合的に把握するよう努めている。 日々の生活の中での小さな変化も見逃さないよう気をつけている。		入居者様の状態の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議やご家族様との報告等反映して見直している。希望があれば、ケース会議へのご家族様参加していただいている。		本人や家族様の希望など情報収集をし話し合っていくたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態を照らし合いながらスタッフ間、意見交換し計画に反映させる。		日々の状態変化に気をつけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を記入する際は、身体的精神的な変化など重要事項は赤字で記入し、各勤務者も申し送りし合い情報共有を心がけている。定期的なケース会議しケアプラン見直しを行っている。毎月、各担当者は他スタッフより意見等を収集し見直しやケアの統一を図っている。		ケース会議だけ出なく、ミニカンファレンス等検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊・ホームへ泊まりも自由にさせていただいている。希望に応じて、出来るだけ速やかに対応、相談を心がけている。		希望を話しやすい環境、信頼関係を築いていきたい。スタッフからも聴いていける様にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際に近隣の学校より、椅子を貸していただいた。近隣中学校から体験学習の受け入れ。ボランティアさんに踊りに来ていただいた。		積極ききに協力、働きかけていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他サービスは活用していない。		色々調べて検討していきたい。 入居者様が習い事などしたいと希望があったら行ければと検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	あまりしていない。		必要の応じて協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様に契約時に希望を聴いている。 かかりつけ医へは、定期健診の他に変化があった際には受診や電話で主治医に指示を仰ぐ。		都度、相談をしていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医が認知症の専門医なので、些細な事でも相談している。</p>		<p>主治医との情報の共有化を行ってきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>特変時は電話、受診時などに相談している。</p>		<p>グループホームでも常勤の看護師が数名は必要と思われる。家の延長ではあるが、急な対応が介護職だけでは不安がある。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ホーム、主治医、家族間での情報の交換し、出来るだけ早く退院できるよう支援している。</p>		<p>かかりつけ医に入院施設ない為、なかには非協力的な病院もある為、入院時その病院は避けてもらえるように家族様に伝えている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>主治医、家族と相談し対応している。</p>		<p>今後の起こり得る変化の予測し対策を相談していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医、家族と相談し対応している。 身体面、精神面における苦痛を和らげる様に努めている。</p>		<p>主治医、家族、スタッフ間での情報の共有をしていく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>馴れるまでの精神面での支援、積極的なコミュニケーションの確保に努めている。 ご家族様の意見を聞き対応している。</p>		<p>一部のスタッフ、入居者様でなく全員と関わりを持ちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報資料など、ホームへの持ち出しを禁止している。</p> <p>一人一人の性格を考慮しながら対応している。</p>	<p>今後も、一人一人の性格の把握をしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>なるべく出来る範囲で、ご自身で決めていただける様に助言を行っている。</p> <p>なかなか単語が出て来ない事もあるが、ゆっくりと探しながら対応している。</p> <p>スタッフ間でも話し合っている。</p>	<p>訴えたくても言葉がうまく出ない時、その方のサインを見抜き対応出来る様に心掛ける。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る範囲でペースを大切にしているが、フロアーにスタッフ一人の時は待っていただいたりしてしまう。</p>	<p>出来るだけ入居者様のペースで過ごせるよ様にスタッフ行動など工夫していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近所の床屋や家族様に連れて行っていただいたりしている。</p> <p>季節に応じた服装、出来るだけ本人の希望に添えるよう最低限の身だしなみが出来る様に声掛け、介助を行っている。</p>	<p>自分で行えるような工夫、声掛けの徹底して行きたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は決まっているが、メニューによって、皮むきや調理を出来る方に手伝ってもらっている。</p> <p>本人のペースに合わせ、バランスの良い摂取の介助を行っている。</p> <p>その人の使いやすいスプーンやフォーク、おにぎりにして提供している。</p>	<p>メニューに合わせて、硬さや大きさを調節していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>イベント時には本人の好きなジュース、ビールやお酒を飲んでいただいている。</p> <p>おやつについては可能な限り支援している。</p> <p>たばこは家族希望や体調を考え出していない。</p> <p>個別のお菓子などは他の方の視線などに気をつけている。</p>	<p>全員平等に購入していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を参考や観察等し、声掛けや誘導を行っている。 他の入居者さんに分からないように声を掛ける。		自尊心や羞恥心に気をつけ、自然な声かけ等していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入りたい方、入りたくない方がいるが前回の入浴日など考えながら、出来るだけ希望に答えられるよう努めている。 季節によって、ゆず湯などにしている。 本人の希望に応じて、温度調整している。		出来るだけ本人の希望に答えられる様に支援していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転を心配し、出来るだけ日中は楽しめる事を提案し昼寝などは進めていない。 季節に応じての空調管理を行っている。 眠れない時は話を聞いたりし安心していただけるようしている。		季節に応じた湿度管理にも気をつけていきたい。 本人の希望に添って支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きな事得意な事を把握し、日常生活の中で調理・裁縫・植物栽培などしていただいている。		生活歴などの情報収集を継続し、さまざまな事をしていただきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している。 買い物時は、レジで払ってもらったりしている。		日常では、無くしてしまったり忘れてしまったり難しいと思うが、本人希望時には買い物できる様に、その際にはお渡ししお買い物に行ける様に支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に買い物や散歩、公園に出掛けたりしている。		回数を増やし色々な所へ行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別では家族様に協力いただき、外食や自宅帰省など相談し行っていただいている。 毎月イベント担当者を決めて、企画している。		全員個別外出できる訳ではないため、家族様の負担等考え相談しアプローチしていきたい。 各自行きたい所などを聞いて企画をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は電話を掛けたり、電話をもらった際にはお話ししていただいている。 手紙を書ける方は書いてもらうよう便箋等用意はしてあるが、書いてもらえてない。		季節の葉書など進めていきたい。 毎月の家族様への手紙に、本人からの手紙も一緒に入れてみたらどうか進めてみたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはリビング、居室や庭などで好きな所で過ごしていただいている。 家族様などとスタッフも、出来るだけコミュニケーションを取れるように心掛けている。		都合の良い時間、自由な時間に面会に来ていただいても大丈夫とアプローチしていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険だからと座って頂くばかりでなく、見守りながら本人の意思で生活して頂いている。 身体拘束についての知識不足のスタッフもいる。		身体拘束についての正しい知識の勉強会の実施していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に所在確認し十分な見守りに努めている。 外へ行きたくなった方がいる際は、スタッフいる時は一緒に外を歩いている。		スタッフ間で情報の共有をし見守っていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室入り口 ドアやトイレに風鈴を飾ったり工夫している。 スタッフ内情報共有し合えるように気をつけているが、行き届かない日がある。		スタッフ同士で声かけを徹底していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や薬剤は鍵をかけて管理し、使用時は必ず見守りを行っている。 薬類は管理室へ保管している。		安全な管理、使用法に気を付けていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態の把握、所在確認をしスタッフ間コミュニケーションを取り勤めている。 過去の事故報告書など確認し参考に事故防止に努めている。		定期的な事故報告の確認、改善案の話し合いを行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアルがあり各自確認している。 訓練などはしていない、全員は把握出来ていない。		各自際確認、勉強を行う 定期的に勉強会や訓練を行っていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	避難ルートやばしょの確認を行っている。 消火器の取り扱いの勉強会の実施		各自避難ルートなどの再確認。 定期的な避難訓練を行っていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の生活の中での起こり得るリスクについて、都度家族様に相談し対策を行っている。		定期的に家族様との話し合いを行っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に、バイタルサインを見逃さないように、情報の共有し気をつけている。		情報の共有を出来るよう努めていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人、内服を確認を行っている。 新しい処方薬は各自調べたりしている。		スタッフ全員が把握出来る様に勉強会や各自際確認が必要である。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜ジュースや水分摂取していただく。 生活リハビリの中での運動や、ラジオ体操の実施を行っている。 入浴時やトイレ時などに腹部マッサージを行っている。		生活の中で身体を動かして頂ける様二声掛けを行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方には声掛けを、困難な方は介助にて行っている。 必要な方は訪問歯科をお願いしている。		拒否のある方にも、口腔ケアの大切さを理解していただき、してもらえる様に声掛けしていく。 自立の方への声掛けを忘れない様にする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方などは、意識して量を気付けている。水分量の少ない方には好きなものを飲んでもらったりしている。		提供する飲み物も選んでもらえるように種類を増やす。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者様スタッフ共に手洗いうがいを、こまめに行っている。汚物など処理方法を決めている。		感染病資料の配布は行っているが、全員が把握していない為勉強会をおこなっていく。消毒の徹底していく。面会者の方にも手洗いうがいをしていただく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理は調理師さんをお願いしているが、極力火を通してもらっている。使用後など掃除をしている。布巾などは消毒している。		清潔に心がけていく。賞味期限が切れたものがない様に、定期的に確認していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の開け閉めをすると音楽が鳴りすぐに気付けるようにしている。掃除をし清潔感を感じていただける様に心がけている。		玄関照明日当たり悪いので、もう少し明るくしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、皆さんと一緒にホーム内掃除をしている。台所やトイレは都度掃除を行っている。明るさ、室温に気をつけている。行事などの写真を飾ったり、装飾を行っている。(七夕やクリスマス・正月飾りなど)		入居者様の作品なども飾っていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフ目を配り、時には喧嘩などにならないように間に入りフォローしている。出来るだけ皆で楽しく過ごせるように、カルタなどで皆で参加してもらえるような事を出来るようにしている。仲の良い方同士では、席を移動したり、居室などでお話ししたりしている。		出来るだけ自由に移動し過ごしてもらいたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使い慣れた物を持ってきて貰う様に話しているが、新しく揃えてくる方が多い。 本人と相談しながら、居室内やたんず等の整理をしている。 茶碗など割れてしまった際には、買い物などで好みの物を選んでもらえるようにしている。		家族様に理解いただき、馴染みの物を持ってきてもらえる様に働きかけていく。 各入居者様の、好みの小物や人形や趣味の物(本や裁縫道具など)を持ってきて頂き、その人らしいお部屋にしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝や掃除の際など窓をあけて換気を行っている。 常に各居室の外気口は少し開けている。		毎朝換気の為に窓を開けたりしているが、すぐ閉めてしまう方のお部屋は食事時など換気できるように声掛けしていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方に使いやすい様なトイレ・洗面台、手すりを設置している。		車イスの方でも、室内自由に移動できるように、家具等の設置に工夫する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂、居室には写真付きの表札を貼っている。 各食事の席や本人の物品には、なるべく大きな字で名前を書いている。 茶筌笥や筌笥には、何所に何をしまったら良いのか本人に判りやすく名前を書いて貼っている。		目的など別々にして、各自により判りやすくしたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	暖かい日には、庭でお茶や行事(バーベキュー・花火・流しそうめんなど)を楽しんでいる。 畑・花壇があり季節ごとに、種まきや手入れ収穫を楽しんでいる。		畑や花壇の手入れを、マメに出来ていない為、もう少し頑張っていきたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1	ほぼ全ての利用者の
		6	利用者の2/3くらいの
		1	利用者の1/3くらいの
		0	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	7	毎日ある
		0	数日に1回程度ある
		1	たまにある
		0	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1	ほぼ全ての利用者が
		6	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1	ほぼ全ての利用者が
		6	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1	ほぼ全ての利用者が
		6	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	2	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	2	ほぼ全ての家族と
		5	家族の2/3くらいと
		1	家族の1/3くらいと
		0	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1	ほぼ毎日のように
		4	数日に1回程度
		2	たまに
		1	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている
		3	少しずつ増えている
		4	あまり増えていない
		1	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	1	ほぼ全ての職員が
		5	職員の2/3くらいが
		2	職員の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
		2	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1	ほぼ全ての家族等が
		7	家族等の2/3くらいが
		0	家族等の1/3くらいが
		0	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出する機会を多く持ったり、ご家族様を巻き込んだ行事を積極的に実施している。(流しそうめん・クリスマス会・バーベキュー・花火など) 利用者さんのしたいことを出来るだけ希望に添えるように努力している。季節を感じていただけるように努める(外出・ホーム内行事・畑など) 生活の中で、出来るだけ自然に身体が動かせるように働きかけている。各利用者さんに担当スタッフをつけ、利用者さんだけでなく、ご家族とも信頼関係を築けるように心掛けています。